

## 試験研究機関における外部評価制度について

### 1 必要性

社会経済情勢の多様な変化、県民や産業界のニーズの多様化・高度化を踏まえ、今後、県立試験研究機関が県民生活に貢献し、地域産業の振興等により一層貢献するためには、外部有識者等による試験研究課題の評価の導入により、これらの変化、ニーズに的確に対応しながら、試験研究活動を充実・強化し、効率・効果的な試験研究を推進する必要がある。

### 2 効果

外部の有識者等による試験研究課題の外部評価を実施することにより、県民・産業界のニーズの的確な把握、県民への説明責任の確保、評価結果を反映させたより高度な試験研究を推進することができる。

### 3 評価制度の概要

#### (1) 評価の目的

- 多様化・高度化する県民や産業界のニーズの的確な把握と事業化につながる研究開発の推進
- 多様な助言による、研究職員の能力等が十分発揮できる研究環境の実現
- 限られた研究資源の効果的・効率的な活用
- 県民に対する説明責任の確保による県民の理解と支持の増大

#### (2) 評価対象とする試験研究課題の選定等

##### ア. 試験研究課題の評価対象及び評価対象外

原則として、試験研究機関で実施するすべての試験研究課題を対象とするが、次のいずれかに該当する試験研究課題については、評価対象外とする。

- 国、企業等から委託を受けて行う試験研究（委託元が全額負担するものに限る）
- 秘密保持義務契約（秘密保持義務を定めた協定等を含む）が締結されている共同研究
- 定型かつ継続的な試験研究であって、各評価専門部会において評価になじまないと認められたもの
- 国その他の公的機関において評価が実施される試験研究

##### イ. 評価の種類及び主な評価項目

評価の種類	主な評価項目
①事前評価 ※研究課題の選定時に研究課題の採択等について評価 (18年度実施課題から評価対象。17年度から導入)	○必要性 ○新規性・独創性 ○目標設定の妥当性・達成の可能性 ○試験研究計画の妥当性 ○試験研究成果の波及効果 ○実施体制の妥当性・効率性
②中間評価 ※研究課題の中間年度等に研究課題の継続等について評価 (18年度実施課題から評価対象。19年度から導入)	○試験研究の進捗状況 ○目標達成の可能性 ○社会経済情勢、県民、地域産業等のニーズの変化への適合性 ○試験研究計画、実施体制の妥当性・効率性
③事後評価 ※研究課題の終了後 1 年以内に研究課題の成果等について評価 (18年度実施課題から評価対象。19年度から導入)	○目標の達成度 ○試験研究計画、実施体制の妥当性・効率性 ○試験研究成果の有益性 ○試験研究成果の波及効果及び取扱い
④追跡評価 ※必要に応じ、事後評価終了から一定期間経過後、その後の波及効果等について評価	○試験研究成果の波及効果及び発展性 ○試験研究成果の取扱い状況

### (3) 評価の実施主体

試験研究機関の課長級及び本庁関係課長級で組織する内部評価委員会で内部評価を行った後、愛媛県科学技術振興会議の下に、評価対象試験研究機関の試験研究分野に関し専門的知識を有する者など、外部有識者で組織する次の評価専門部会で外部評価を実施する。

評価専門部会	委員数	評価対象試験研究機関
衛生環境評価専門部会	6名	衛生環境研究所
産業技術評価専門部会	9名	産業技術研究所
農林水産評価専門部会	10名	農林水産研究所

※各評価専門部会は、必要があると認める場合は、委員以外の有識者等(アドバイザー)の参加を求めることができる。

### (4) 評価結果の取扱い

評価結果を研究課題の選定、改善、中止等に適切に反映させるとともに、評価結果及びそれに基づいて講じた措置を、ホームページ等により一般に公開する。ただし、個人情報、企業秘密等の保護又は特許等の知的財産権に関わるものについては、公開しないものとする。

#### 「評価専門部会」委員名簿（任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日）

評価専門部会	氏名	所属
衛生環境 評価専門部会	田邊 知孝	松山大学薬学部准教授
	森本 千恵	松山東雲短期大学教授
	高田 智世	愛媛県立医療技術大学特任教授
	国末 達也	愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授
	徳岡 良則	愛媛大学社会共創学部助教
	黒河 由佳	特定非営利活動法人森からつづく道理事
産業技術 評価専門部会	八尋 秀典	愛媛大学理事・副学長
	福田 泰三	株式会社いよぎん地域経済研究センター主任研究員
	白井 みゆき	新居浜工業高等専門学校准教授
	田尾 博明	産業技術総合研究所名誉リサーチャー
	藤井 文子	人間環境大学松山看護学部非常勤講師
	内村 浩美	愛媛大学紙産業イノベーションセンターセンター長
	武部 博倫	愛媛大学大学院理工学研究科教授
	丹後 佳代	株式会社丹後取締役
	白石 晴奈	東洋タクシー株式会社営業部長
農林水産 評価専門部会	和田 博史	愛媛大学大学院農学研究科教授
	岡本 由美	愛媛県農業指導士会農業指導士
	池田 広美	株式会社ミーティン・クラフト代表取締役
	豊後 貴嗣	岡山理科大学獣医学部教授
	中島 悦子	松山東雲短期大学准教授
	上谷 浩一	愛媛大学大学院農学研究科教授
	矢野 陽子	株式会社クラス代表取締役
	竹ノ内 徳人	愛媛大学南予水産研究センター教授
	塩田 浩二	雑誌「eのさかな」ライター
天野 通子	愛媛大学大学院農学研究科准教授	

# 令和6年度試験研究課題評価結果

## (事前評価)

### 1 評価実施

令和7年度から実施する予定である試験研究課題について、各評価専門部会を開催し、試験研究課題評価（事前評価）を実施した。

#### 【評価項目】

翌年度の県予算作成時までに、次に掲げる項目について評価する。

- ア 必要性
- イ 新規性・独創性
- ウ 目標設定の妥当性・達成の可能性
- エ 試験研究計画の妥当性
- オ 試験研究成果の波及効果
- カ 実施体制の妥当性・効率性

### 2 評価結果

各評価専門部会における評価結果は次のとおり。

#### 【点数評価】

- ・各評価項目（6項目）ごとに5点満点の点数評価を行う。（合計30点満点）

#### 【総合評価】

- A：試験研究課題を採択
- B：試験研究課題を一部変更して採択
- C：試験研究課題を不採択

ア. 産業技術評価専門部会（6課題）

機関名	課題名 (概要)	点数評価	総合評価
産業技術研究所 技術開発部	<b>シミュレーション技術を用いた製品軽量化手法の検討</b>	22.0	A
	金属材料をはじめとした種々の材料について、有限要素法解析を用いた製品の形状評価及び軽量化検討手法を確立し、既存製品への適用による実証評価等を行う。		
食品産業技術センター	<b>ゼロエミッションに向けたうめ素材特性の解明と応用</b>	22.7	A
	農産品加工業界におけるゼロエミッションに取り組むことを目的に食材ロス軽減に向けた果実浸透技術開発や加工品製造時に発生する残さ（梅酢）の利活用が図れる技術を開発する。		
食品産業技術センター	<b>愛媛真珠活性化プロジェクト - 高品質真珠製造技術開発</b>	25.6	A
	A級品真珠生産率向上を目的とした「高品質真珠製造技術開発」、高精度な品質評価・選別を目的とした「高精度真珠評価技術開発」に取組み、愛媛県産真珠のブランド力向上を図る。		
紙産業技術センター	<b>未利用資源を配合した紙の性能向上に関する研究</b>	24.3	A
	未利用資源を配合した紙を積層し、ウォータージェット処理を行うことで、紙厚及び柔軟性を向上させる。これにより、未利用資源を配合した紙袋や紙製エコバッグ等への応用を目指す。		
繊維産業技術センター	<b>柔らかさが持続するタオルの開発</b>	24.9	A
	綿繊維の化学処理及び使用糸の素材・構造などの条件を検討することにより、タオルの硬化要因となる水素結合を抑制し、洗濯を繰り返しても柔らかさが持続するタオルを開発する。		
窯業技術センター	<b>地域資源を活用した食生活を彩る製品の開発</b>	22.3	A
	未利用資源を最大限に活用しながらも熱衝撃に強い砥部焼を開発し、新規市場の開拓と砥部焼の洋食器化を目指す。		
合計	A : 6 B : 0 C : 0		

イ. 農林水産評価専門部会（8課題）

機関名	課題名	点数評価	総合評価
農林水産研究所	<p><b>米の品質低下をもたらす病害虫総合防除対策の確立</b></p> <p>米の品質低下をもたらす、イネ稲こうじ病およびイネカメムシは、古くから発生していたが、近年は問題となることがなかった。しかしながら、10年程前から全国的に発生が顕在化しており、本県においては、ここ数年間、稲こうじ病は高い水準が継続するとともに、イネカメムシは急激に増加している。このため、防除の目安となる新たな簡易モニタリング手法や土壌改良資材の施用などを組み合わせた実効性のある総合防除対策を確立する。</p>	23.2	A
農林水産研究所	<p><b>気候変動に対応した新たな花き産業の創出</b></p> <p>新規に亜熱帯地域の植物を導入し、県内の気象条件下での施設栽培体系を確立することで、気候変動に対応した新たな花き産業の創出を目指す。</p>	25.8	A
果樹研究センター	<p><b>カンキツ黒点病薬剤防除体系確立試験</b></p> <p>カンキツ黒点病は果実の外観品質を大きく低下させることから、マンゼブ剤またはマンネブ剤を主体とした防除が実施されている。しかし、年間2回の散布が可能であったマンネブ剤が農薬取締法の再評価制度の開始により2026年10月までに登録失効する。マンネブ剤は耐雨性に優れた防除効果の高い薬剤であったことから、薬剤防除体系の再構築が必要とされている。そこで、代替薬剤の評価を行い、新しい薬剤防除体系を確立する。</p> <p>また、生産性の向上のため、ドローンの新機種と散水処理の有効性を評価し、省力的な防除体系を確立する。</p>	24.4	A
畜産研究センター	<p><b>「愛媛あかね和牛」発育性向上技術確立試験</b></p> <p>和牛肥育経営における若齢肥育は、肥育期間を短縮し飼料費削減が期待されるものの枝肉重量が低下する傾向にある。</p> <p>このため、枝肉重量と月齢体重の相関を求めたところ、枝肉重量は10か月齢体重との相関が高く、さらに10か月齢体重は7か月齢体重が影響していることが判明した。</p> <p>そこで、7か月齢までの哺育・育成期、10か月齢を含む肥育前期までの発育性改善に取組み、若齢肥育における枝肉重量増加技術を確立する。</p>	23.2	A
養鶏研究所	<p><b>鶏卵鶏肉の新たな高付加価値創出試験</b></p> <p>消費者ニーズが多様化する中、健康志向の高まりから鶏卵鶏肉に対しても、栄養成分で差別化を図った商品の取り扱いが増加するなど、消費者の付加価値志向が強くなっている。</p> <p>そこで、鶏卵鶏肉への成分移行が難しいとされている鉄などの機能性成分を移行することができれば、新たな需要が創出され県内養鶏農家の収益向上に繋がることを期待できる。</p> <p>当所では、機能性成分の形態の違いが成分移行に与える影響を調査し、鶏卵鶏肉の新たな高付加価値創出を確立する。</p>	26.8	A

機関名	課題名	点数評価	総合評価
林業研究センター	<p><b>クヌギエリートツリーの生長特性評価及び樹種判別技術開発研究</b></p> <p>愛媛県においては、クヌギは主にシイタケ原木として用いられているが、ホダ木伏せ込み量は年々低下している。東日本大震災以降、原木の東日本への移出が始まり、また、花粉症対策やスギ・ヒノキ人工林からの樹種転換に用いられるなど、クヌギの材・苗木の用途も変化しつつある。しかし、成長特性の低さによる造林コストの高どまりや近縁種であるアベマキの混入による原木のクレーム返品など様々な課題を抱えている。</p> <p>そのため、クヌギとアベマキの樹種判別技術の開発を行い、移出事業者のサポートを図るとともにクヌギエリートツリーの採種園を造成し、成長特性の把握を行うことでクヌギエリートツリーの普及を図り、低コスト再造林を推進し、林家の所得向上による持続可能な森林経営や花粉症対策に資する。</p>	22.4	A
養鶏研究所	<p><b>養殖魚加工残渣と河内晩柑の混合魚粉を活用した新たな鶏卵・鶏肉開発試験</b></p> <p>これまで、配合飼料価格が高止まりで推移するなか、養鶏農家は飼料費低減や高付加価値化による収益向上により対処してきた。さらなる県内外の販売強化を図るため、県内の養鶏団体が一丸となって「愛媛らしさ」をアピールできる鶏卵・鶏肉の開発を求める声が大いことから、愛南町の特産である「養殖真鯛」と「河内晩柑」を原料とした混合魚粉を飼料化することで、愛媛らしさをアピールできる鶏卵・鶏肉の生産が可能であると考えた。</p> <p>そこで、この混合魚粉を採卵鶏及びブロイラーに給与し、鶏卵・鶏肉の生産性や高付加価値化を調査することで、愛媛らしさを兼ね備えた鶏卵・鶏肉の生産技術体系を確立し、本県養鶏の持続的な発展を目指す。</p>	23.0	A
農林水産研究所	<p><b>サトイモ愛媛農試 V2 号（伊予美人）を凌駕するスーパー品種の開発</b></p> <p>本県のサトイモ生産量が全国4位に躍進した要因の一つに県オリジナル品種の「愛媛農試 V2 号」（伊予美人）の存在がある。この「愛媛農試 V2 号」は、全国で栽培可能な石川早生と比較して収量性や品質が良好であり、本県の主な出荷先である大阪市場の平均単価も 302 円/kg（石川早生 272 円/kg）と高値で取引されている。しかしながら、令和15年に育成者権が消滅すると、他県でも生産に着手すると想定されるため、品種の困り込みによるサトイモ生産の優位性低下が懸念されている。</p> <p>そこで、新たなサトイモ品種を育成するため、未来型農林水産研究プロジェクト（第1期：R4～R6）を実施し、収量性や病害抵抗性について有望と考えられる16系統を選抜した。本プロジェクトは第2期として、将来のサトイモ栽培を見据えた新品種に求められる形質を、大規模省力生産に適した収量性や加工適性の向上と、重要病害の抵抗性を保持する事と想定し、第1期の成果を踏まえ、必要な技術開発を行うとともに、期間終了時に「愛媛新系統」の選抜を行い、新品種登録を目指す。</p>	24.2	A
合計	A : 8 B : 0 C : 0		

# (中間評価)

## 1 評価実施

中間評価を実施する各課題について、農林水産評価専門部会を開催し、試験研究課題評価（中間評価）を実施した。

### 【評価項目】

5年以上にわたって実施する研究課題について、中間年度に次に掲げる項目について評価する。

- ア 試験研究の進捗状況
- イ 目標達成の可能性
- ウ 社会経済情勢及び県民、地域産業等のニーズの変化への適合性
- エ 試験研究計画及び実施体制の妥当性・効率性

## 2 評価結果

評価専門部会における評価結果は次のとおり。

### 【点数評価】

- ・各評価項目（4項目）ごとに5点満点の点数評価を行う。（合計20点満点）

### 【総合評価】

- A：試験研究課題を継続
- B：試験研究課題を一部変更して継続
- C：試験研究課題を中止

ア. 農林水産評価専門部会（2課題）

機関名	課題名	点数評価	総合評価
農林水産研究所	<p><b>こだわりの新規品目で取り組む持続可能な有機栽培技術の確立</b></p> <p>みどりの食料システム戦略でも掲げられている有機農業の面積拡大のため、有機農業を志向する新規就農者が安心して取り組める技術開発を目指す。</p> <p>こだわり品目として、ズッキーニでは、栽培法による土着天敵数の違いはなく、収量は有機栽培でも慣行と同等であった。ミニ白菜ではヨトウムシやアブラムシが問題となる場合があった。</p> <p>水稻では本県開発の「ひめの凜」を対象に有機水稻で特に問題となる雑草とスクミリンゴガイ対策に取り組む、従来よりも苗を大きくした中苗移植栽培により、スクミリンゴガイの食害を抑え、除草作業も省力化できた。県内におけるスクミリンゴガイの分布は平野部を中心に拡大傾向であり、在来種マルタニシは山間部を中心に局所的に確認され、一部では両種が同所的に確認された。</p> <p>有機肥料・資源の入手を容易にするため、県内有機資源の調査・成分分析を行い、データベース化を進めている（R4、R5年度で47件）。今後、それら情報と土壌分析値を利用した施肥設計支援ツールを開発するとともに、実証栽培を行う。</p> <p>また、有機農業拡大の条件解明として生産者（有機栽培・一般栽培）へのアンケート調査を行った。有機栽培農家は一般栽培農家に比べて多くの種類の有機資源を投入している傾向があり、今後利用したい有機資源については、どちらの形態の農家も価格や手に入りやすさ、物理性改善効果などを重視していた。</p>	15.0	A
みかん研究所	<p><b>カンキツ日焼け症軽減技術確立試験</b></p> <p>近年、気温上昇に伴うカンキツ日焼け症が増加し、正品率低下の要因の一つとなっている。今後、温暖化はさらに進むことが予測され、軽減技術の確立が重要である。本研究では、カンキツ日焼け症の発消長と品種間差異を調査し、技術対策に必要な品種を明らかにする。また、果実保護技術の実証調査と経営評価を行うとともに、新たな日焼け症軽減技術を開発し、正品率と農家所得の向上を図る。</p>	17.0	A
合計	A : 2 B : 0 C : 0		

# (事後評価)

## 1 評価実施

事後評価を実施する課題のある各評価専門部会を開催し、試験研究課題評価を実施した。

### 【評価項目】

試験研究終了後1年以内の間に、次に掲げる項目について評価する。

- ア 目標の達成度
- イ 試験研究計画及び実施体制の妥当性・効率性
- ウ 試験研究成果の有益性
- エ 試験研究成果の波及効果及び取扱い

## 2 評価結果

評価専門部会における評価結果は次のとおり。

### 【点数評価】

- ・各評価項目（4項目）ごとに5点満点の点数評価を行う。（合計20点満点）

### 【総合評価】

- A：計画どおり又はそれ以上の成果を得た
- B：計画に近い成果を得た
- C：成果を得られなかった

ア. 産業技術評価専門部会（5課題）

機関名	課題名	点数評価	総合評価
産業技術研究所 技術開発部	<b>ウェーブレット解析を活用した音や振動データの見える化機器開発</b>	17.0	A
	ウェーブレット解析による高精度な音声データの可視化を、安価なシングルボードコンピュータである Raspberry Pi 4 とその周辺機器を用いることで実現できた。		
繊維産業技術センター	<b>低コストで環境に優しい「柔らかい糸」の製造方法に関する研究</b>	17.0	A
	普通綿糸に対して、通常より強固な糊付け後に糸を解燃することによって、従来の無燃糸と同等の柔らかさを持つ糸の作製方法を開発した。この製造方法は従来の無燃糸の製法より低コストかつ環境負荷の小さいものとなった。		
紙産業技術センター	<b>紙基材を用いたガスバリアシートの開発</b>	17.1	A
	生分解性のある PVA、または CNF 塗工液を紙基材に塗工することで、バリア性が高いガスバリアシートを得ることができた。特に CNF を用いることで高いリサイクル性が確認でき、脱プラスチックとガスバリア性を兼ね備えた紙素材が開発できた。		
窯業技術センター	<b>機能性と意匠性を両立したいぶし瓦タイルの開発研究</b>	16.3	A
	水酸化アルミニウムを 30% 配合し、土の粒度及び、タイル表面の形状を変えた瓦タイルを 800°C で焼成することで、吸放湿性と脱臭機能を付与し、また意匠性向上との両立を図った。		
食品産業技術センター	<b>愛媛県産ジビエの品質評価及び加工法の研究</b>	17.1	A
	県内産イノシシ肉、シカ肉を対象に日本食品標準分析表分析法に準拠した一般栄養成分分析（水分、脂質、灰分、タンパク質等）、香気成分（ヘキサナール、アセトイン、ペンタナール）分析を行った。その結果、餌や繁殖時期が肉の品質に大きな影響があることが分かった。		
合計	A : 5 B : 0 C : 0		

イ. 農林水産評価専門部会（7課題）

機関名	課題名	点数評価	総合評価
農林水産研究所	<p><b>果菜類の高品質多収技術確立試験</b></p> <p>本県の施設野菜の主要品目であるイチゴとトマトについて、好適環境条件を解明し、高品質多収を目指した複合環境制御技術の開発を目的に試験を実施した。</p> <p>その結果、イチゴでは、CO<sub>2</sub>施用が収量増加に影響し、局所施用の場合は、年内から施用すると成り疲れが発生することが明らかとなった。そのため、効果的に収量を増加させるためには、CO<sub>2</sub>施用と合わせて液肥の濃度や施用タイミング等を検討する必要があると考えられた。</p> <p>トマト、ミニトマトでは、再生ヤシガラ培土を用いた低コストでオリジナルな栽培システムを開発し、本システムに適した高品質多収品種を選定した。また、夏季の高温期に遮光シートと細霧冷房を併用することで、ハウス内気温を外気温より2℃低下させることができた。</p>	16.7	A
農林水産研究所	<p><b>サトイモ大規模省力生産技術開発事業</b></p> <p>サトイモの更なる産地規模拡大に向け、①大規模・広域集団栽培に適用できる安定生産技術の開発、②次世代型広域選果場の実装に資する無人選別技術の開発、③未利用資源の有効活用に資する加工技術の開発に取り組んだ。</p> <p>その結果、①について、乗用管理機による土入れや防除作業の省力化や、農業用ドローンに対応した農薬の適用拡大を達成した。②について、AI技術を用いた選別技術を検討し等級分類を実施すると、正解率は82.0%であった。③について、親芋を使用したサイレージを製造したところ利用性の高い飼料価値を有していたほか、食品加工において、一次加工方法によって親芋の変色や繊維質な食感を改善することができた。</p>	18.8	A
畜産研究センター	<p><b>低コスト発酵TMR飼料調製・給与技術確立試験</b></p> <p>酪農経営における飼料コストの低減と飼料給与作業の省力化に資するため、愛媛県内で産出される食品製造副産物等（ケール搾汁残さ、柑橘搾汁残さ、規格外サトイモ）を高位活用した発酵型TMRの給与が乳生産に及ぼす影響を調べ、乳牛用飼料としての有用性を評価した。食品製造副産物を効果的に配合した発酵型TMRは乳牛用飼料として有用であり、分離給与からTMR給与への移行による乳生産向上を大いに期待できると評価した。</p>	17.5	A
養鶏研究所	<p><b>採卵鶏暑熱対策飼料給与技術確立試験</b></p> <p>平均気温の上昇する昨今では、気温の上昇に伴う鶏へのダメージ抑制を行うための暑熱対策が必要となっている。そのため、暑熱対策技術の開発が急務となっている。そこで、熱生産性の少ない植物性油脂に着目し、飼料給与による暑熱対策技術の開発を試みた。その結果、植物性油脂を添加することで、体温上昇が緩やかになる傾向と、それに伴い産卵率が向上する結果が確認された。また、産卵初期という鶏の体を作る重要な時期に暑熱対策を施すことで、産卵ピークからの産卵率減少速度低下を示す傾向も見られた。</p>	14.2	B

機関名	課題名	点数評価	総合評価
林業研究センター	<b>スギ大径材利用技術研究</b> 大径原木の新たな利用法を普及させるため、原木の効率的な調達方法を実証し、強度性能を活かした断面積の大きい構造用部材へ利用する方法を開発するとともに、内装材の新たな付加価値として、大気浄化機能を持つ心材部の機能性について検討を行った。 スギ大径材の原木段階での強度選別の有効性が判明した。 スギ大径材から作成した接着合わせ材の強度性能評価を行ったところ、すべての試験体が JAS 基準を満たしており、大径材の利用法として有効であることが判明した。 NO <sub>2</sub> の試験片への収着量を測定したところ、乾燥温度が高くなるほど NO <sub>2</sub> の収着量は低下し、収着には抽出成分が関与していることが判明した。 NO <sub>2</sub> 除去機能を最大限に発揮する内装材の利用方法を示した技術指針を作成し、木材関係者に周知した。	16.8	A
栽培資源研究所	<b>高水温耐性ノリ養殖安定化技術開発試験</b> 養殖ノリの産地である県東部の燧灘では、近年の地球温暖化に伴う海水温の上昇により、ノリの生長不良が生じ、生産量の減少が続いている。 本事業では高水温下でも正常に生長する高水温耐性株の作出を目的に、前事業の高水温期ノリ養殖安定化技術開発試験に引き続いて室内選抜を繰り返し、選抜株の室内培養試験及び養殖試験により特性評価を実施した。その結果、一般養殖株よりも高水温耐性を有する株の作出に成功した。	16.7	A
栽培資源研究所	<b>アサリ資源回復技術高度化試験</b> 西条市の干潟域では、春に出現するアサリ稚貝のほとんどが、成貝となるまでに消失してしまうことから、これまでに餌料が豊富な場所への移植手法や、被せ網と敷網（被覆網）による大規模保護技術を開発してきた。一方で、移植及び設備の設置に多大な労力がかかり、収益性の面で課題が残された。 このため本事業では、作業の省力化、簡素化に取り組み、被せ網のみによる簡便で効率的な保護技術の開発に成功するとともに、施肥の併用により網内部の餌料環境の改善及びアサリ生残率の向上を確認することが出来た。また、実用化を見据えた大型の被せ網を用いた試験によりアサリ保護の大規模化技術を実証することができた。	15.7	A
合計	A : 6 B : 1 C : 0		

# (追跡評価)

## 1 評価実施

追跡評価を実施する各課題について、農林水産評価専門部会を開催し、試験研究課題評価（追跡評価）を実施した。

### 【評価項目】

事後評価終了から一定期間経過後、必要に応じて、次に掲げる項目について評価する。

- ア 試験研究成果の波及効果及び発展性
- イ 試験研究成果の取扱い状況

## 2 評価結果

評価専門部会における評価結果は次のとおり。

### 【点数評価】

- ・各評価項目（2項目）ごとに5点満点の点数評価を行う。（合計10点満点）

### 【総合評価】

- A：成果の活用等がみられる
- B：今後成果の活用等が期待できる
- C：成果の活用等が期待できない

ア. 農林水産評価専門部会（2課題）

機関名	課題名	点数評価	総合評価
農林水産研究所	<b>腎疾患対応低タンパク米開発事業</b>	9.2	A
	<p>腎疾患患者の保健指導のためにはきちんとしたエビデンスが重要であるため、蓄尿試験結果をとりまとめ日本病態栄養学会誌に投稿中である。</p> <p>「低たんぱく加工処理玄米」については、製造方法を標準化するためにメディカルライス協会が製造工程 JAS を申請し 2022 年に正式に認められた。</p> <p>易消化性タンパク質高速測定技術については、引き続き日本全国からさまざまな品種の玄米サンプルを取り寄せ分析データを蓄積し、検量線を更新することで精度向上を進めている。</p> <p>本研究の成果を踏まえて医療現場や腎疾患患者等からの需要が増加するなら、‘媛育 83 号’の生産・販売による所得向上や新たなブランド化が期待できる。このため、種子供給体制の整備と需要に応じた生産拡大は検討すべきと思われる。</p> <p>新たな試験研究への応用として、レジスタントプロテイン（プロラミン）を通常の約 2 倍量を含む‘媛育 83 号’を用いた日本酒の試験醸造および「酒粕」の機能性評価を計画している。</p>		
果樹研究センター	<b>キウイフルーツ花粉安定生産技術開発試験費</b>	8.8	A
	<p>花粉専用園地において大規模に花粉を生産する技術を開発した。その成果をもとに花粉採取マニュアルを整備し、キウイフルーツ関係者に配布した。</p> <p>また、松野町で始まった花粉ビジネスの定着に向けて、鬼北農業指導班とともに支援を継続している。令和 4 年には花粉 200 g を初収穫し、その花粉を使って、令和 5 年に県内の主要産地の 12 園地において受粉試験を行った。その結果、松野町産花粉は輸入花粉と比べて同等の品質を有していることを確認するとともに、使用した農家からも高い評価を得ることができ、令和 6 年度より県内キウイフルーツ生産者への花粉販売がスタートした。</p>		
合計	A : 2 B : 0 C : 0		